

モビリティ・ソリューション賞

子ども達の絵やメッセージを感じられる場づくり



同取り組みは、代表理事を務める宮田博文氏の会社で発生した交通死亡事故をきっかけに始まった。こどもミュージアム

プロジェクトをトラックの背面にラッピングすることで事故を一件でも減らしていく」という思いでスタートした。

同取り組みは、代表理事を務める宮田博文氏の会社で発生した交通死亡事故をきっかけに始まった。こどもミュージアムプロジェクトは「運転士に見てもらえる人にも心のゆとりを持って、活動を続ける。子どもたちの絵やメッセージを感じてもらえる場づくりに向けて、活動を続ける。子どもたちの絵やメッセージを感じ取れることで事故を一件でも減らしていく」という思いでスタートした。

また、教育現場においても

「やさしいきもちがみんなをつくる」を「ンセブトに交通安全の話をするほか、職業講話として同取り組みについて述べる場も設けてい

ジアムトラックは「運転士に見てもらえる人にも心のゆとりを取り戻させる」との思いの下、「優しくしたい・世の中を良くしたい」という気持ちを呼び起させる」考え方でいる。その考えに共感している。その企業が参画。ミュージアム号は1100台を超える。

2018年からは、大阪府吹田市の万博記念公園お祭り広場で「こどもミュージアムフェスタ」を開催。コロナ禍では中止したものの、22年に3年ぶりに再開した。大型ミュージアムトラックなど30台を超えるミュージアム号を展示了。25年の大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。同

トラック背面から事故抑制呼び掛け

【受賞者コメント】
この度は、第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞にて、モビリティ・ソリューション賞と過分なる賞を授賞させていただき、誠にありがとうございました。10年にわたる私どもの活動が、このような場において、交通安全につながる活動だと認めていただけましたことは、大変嬉しく、心より感謝申し上げます。今後も、1件でも多く事故削減につなげていけるよう、国内にとどまらず海外も視野に入れ、あらゆる角度から活動を続けて参ります。



「NZもニュージアムプロジェクト協会